

成熟したシビルエンジニア活性化小委員会

2018

報告書

2019年3月

土木学会

教育企画・人材育成委員会

成熟したシビルエンジニア活性化小委員会

はしがき

本報告書は、公益社団法人 土木学会 教育企画・人材育成委員会 成熟したシビルエンジニア活性化小委員会（以下、「成熟シビル小委員会」と略記）の2017年度から2018年度の活動成果を中心に取りまとめたものである。

この小委員会は、2007年から活動を開始した。2007年当時は、団塊世代が定年退職年齢である60歳を迎える時期であり、いわゆる「2007年問題」が顕在化し、土木技術者の技術継承や世代交代がうまくいかないなどの問題が生じるのではないかという大きな問題意識を抱えており、また、シニア世代が今後活躍する機会も多くなることが予想されたため、その実態把握やシニア層の活性化方策について活動したことがこの委員会活動の初期の段階である。

その後、シニア層の活性化に関しては、定年退職後の技術者が市民社会で活躍すべく、NPO活動への支援活動などを行うことを当委員会で活動していたが、その活動は、新たに結成された「シビルNPO推進小委員会」に受け継がれ、現在も活発に活動中である。当委員会では、現役世代を対象に、定年退職後もいきいきと活動できるように必要なものは何かをテーマに、シニア世代のインタビュー活動や、2007年に実施したアンケート調査の5年後、10年度の実態を知る活動を継続的に実施している。この小委員会は、活動12年目を迎えることができた。活動にあたっては、インタビューにご協力いただいたシニアシビルエンジニアの先輩方、アンケート調査にご協力いただいた企業の皆様、土木学会の会員技術者の皆様の温かいご支援があつてここまで継続できたのであると考えている。これらの皆様に感謝しつつ、今後も活動を継続していければと考えている。

今後については、65歳を超える継続雇用の定着、若手の土木離れなどの課題を抱える中で、シニア技術者がどのように活躍すべきか、あるいはシニアになるために何をしなければならぬかを考える機会が多く、当小委員会が土木界に提言すべきことを時世の変化に合わせて継続的に検討していくことを考えていきたい。

最後になりましたが、報告書とりまとめに際し、委員の皆様、関係者の皆様に多大なる貢献をいただいたことに感謝の意を表したい。

2019年3月

土木学会 教育企画・人材育成委員会
成熟したシビルエンジニア活性化小委員会
委員長 加藤 隆

成熟したシビルエンジニア活性化小委員会の活動方針

先進諸国において少子・高齢化及び人口減少が進行中である。我が国においても状況は全く同様、或いは先陣を切って走っており、それに伴って様々な社会的問題が発生している。日本の、今現在の問題としては、所謂「団塊の世代」の高齢化に伴って問題が急速に顕在化しており、土木界においても状況は同じである。社会資本整備に携わる土木界における問題は「社会資本ストックの増大とも合わせて、このような時代の社会資本整備は如何にあるべきか?」、「生産力、特に熟練生産力の減少、技術の継承の不調、雇用の継続(必要性・方法とコスト負担)」の2つに大きく分類される。本委員会は主として後者について、社会(社会資本整備の受益側を含む)及び組織・個人の全てが良好な結果を得られる方向に向けて、「成熟したシビルエンジニアの活性化」について調査研究を行うものである。

- 1.土木界～社会資本整備界における課題の整理、対応の方向性
- 2.具体の展開における支援方策
- 3.今後のしかるべき展開に向けてのプロモーション（シンポジウムの開催）
- 4.次年度以降の展開～活動の形態

成熟したシビルエンジニア活性化小委員会 委員

【委員長】

加藤 隆 大成建設（株）

【幹事長】

荒谷 太郎 国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所

【委員】

駒田 智久 オフィスパスタイム

鈴木 泰之 （株）建設技術研究所

中野 晴夫 パシフィックコンサルタンツ（株）

日比野 直彦 政策研究大学院大学

三嶋 信広 清水建設（株）

【委員兼幹事】

黒田 武史 日本工営（株）

玄間 千映子（株）アルティスタ人材開発研究所

澁谷 容子 東洋建設（株）

高橋 麻理

原田 奉行 東日本旅客鉄道（株）

保田 祐司 鹿島建設（株）

山崎 廉予 国立研究開発法人 土木研究所

ご寄稿（土木学会第 106 代会長 小林 潔司）

平成 31 年 2 月 13 日

土木学会第 106 代会長
小林 潔司（京都大学）

人生 100 年時代。最近、老年学（ジェロントロジー）という言葉を目にするようになった。長寿になったことが個人や社会に何をもたらすのかに関して、ようやく議論が始まった。人々が経験を蓄積し、新しい拡大された選択権を行使し、社会に影響を与える前例のない機会を有する時代になった。ひとは長い一生の間に立ち止まって、自分の生きがいを考えることがある。多くの人々は「やりたいこと」の中から生きがいを見出そうとする。多くの場合答はない。ジェントロジーの研究成果によれば、生きがいは「なすべきこと」の中にあるという。生きがいは「したいこととやるべきこと」が一致することである。

日本は戦後焦土と化した国土から、綿々と社会資本を整備し、今日の豊かな社会を作り上げた。国土の復興・繁栄のために土木技術者がなした貢献は極めて大きい。土木技術者の多くは使命感に燃え、自分の能力や技術がインフラとして結実する結果から多くの生きがいを勝ち得た。時は変わり、高度経済成長期のような大量のインフラ需要はなくなった。インフラ需要がなくなったわけではない。国土の再編、インフラ更新という難題に立ち向かわなければならない。少子化の影響により、若手土木技術者の数が減少を続けている。ベテラン土木技術者の技術継承が焦眉の急である。

日本の経済成長を支えた土木技術者は、豊富な現場の知恵と技術を有している。それ以上に、土木技術者としての気概や誇り、防災や国土の発展に関わる使命感を持っている。長くなった人生を使命感とともに暮らす。それは、土木技術者としての最大の生きがいではないかと思う。土木技術者としての誇りを生涯維持できる社会、それは素晴らしい社会である。それはベテランと呼ばれる域に達した技術者だけではなく、土木技術者として人生を歩み始めた若手、これから社会に羽ばたこうとする学生諸君が、自分の将来に対して大きな自信と夢を抱く社会でもある。この意味で、成熟したシビルエンジニア活性化小委員会が、これまでの活動成果をとりまとめた報告書を上梓するに至ったことは意義深いことだと考える。

ご寄稿（土木学会理事 教育企画・社会支援 安福 規之）

成熟したシビルエンジニア活性化小委員会の活動にあてて

土木学会理事 教育企画・社会支援
安福規之（九州大学）

この度、執筆のご依頼をいただき、第23回までの「シニアに学ぶ『退職後の輝き方』」を読ませていただいた。登場されている皆さんそれぞれに退職後の人生や生き方があり、私自身、退職後の身の処し方についてときどき思いをはせることがある中で、共感できたり、いいねと思えることが多くあった。まずもってこういった執筆の機会を与えていただいたことに感謝である。「もの」ではなく「ひと」に視点をおいて、シニアの皆さんのこれまでの生きざまをうまく見せていただいているところが、多くの方の心に響いているのではないのでしょうか。企画をされる皆さんのご苦勞は多いでしょうが、是非これからも可能な限りこの企画は続けていただけるとありがたいと思う次第です。

本小委員会は、資料によると2007年に組織され、今年で13年目を迎えられるとのこと、その間、一貫してシニアのエンジニアに焦点をあてた活動をされてきている。個人的には、これからも、シニアエンジニアが生き生きと活動できるよりどころとなるような場を創っていただけることを期待しますし、また、さらにとということであれば、ホームページなどを活かして、シニアの皆さんに気楽に質問できるような問い返しが可能な双方化の仕組みの検討も考えていただけると、これまでの活動がより活かされるように感じます。

また、これからの10年、AIやIoT、ロボットなど、技術や社会・産業システムなどの技術革新が加速度的に進み、土木分野においても働き方が大きく変わってくるのが想起される。こうした技術革新が進めば進むほど、自立したエンジニアには、基本に戻って創造する力や工夫する力が今以上に大切になるように思えます。小委員会として、現役のエンジニアのみならず、多くの若者が土木エンジニアを夢みて、さらに彼らを創造力のある土木エンジニアに育てることをめざした活動を進めていただけることも期待したいところです。

最後になりますが、小委員会でもまとめられた報告書が広く社会で活かされることを願います。

目次

1. これまでの小委員会活動について	1
1.1. 委員構成と活動内容.....	3
1.2. 過去の活動報告・成果一覧（活動報告からの抜粋）	7
2. 土木学会のシニア会員数の推移	11
2.1. 土木学会におけるシニア技術者の割合の変遷	13
2.2. 定年退職後の学会活動に関する考察.....	14
3. 成熟シビル小委員会の具体的な活動内容	17
3.1. インタビュー活動	19
3.2. シビルエンジニアの定年退職後の雇用及び活動に関する調査	91
4. 成果の対外的な発表	119
4.1. 講演・その他寄稿	121
4.2. 論文.....	121
4.3. WEB サイト	121
5. 今後の展望（2019年度以降の活動に向けて）	147
5.1. 今後の展望.....	148
5.2. 編集後記	148

